

| 基本情報 | 科目名 | 特論 | 専門分野 視能訓練学 | | |
|------|--|--------|------------|--------|---------|
| | 開講期 | 3年 前後期 | 7 単位 | 210 時間 | 授業方法 講義 |
| 担当者 | 田野上 恭子 ■専任 □兼任 ■実務経験（視能訓練士） 病院に勤務し、弱視や斜視の検査および訓練の経験を有する | | | | |
| | 正 鮎美 ■専任 □兼任 ■実務経験（視能訓練士） 病院に勤務し、弱視や斜視の検査および訓練の経験を有する | | | | |
| | 他, 3名 | | | | |
| 授業概要 | 国家試験に向けて必要な知識を身につける | | | | |
| 到達目標 | 国家試験に準じた学内の模擬試験で75点以上を獲得する | | | | |
| 授業計画 | 担当分野 田野上： 斜視総論，斜視治療，眼振 正： 斜視の病態と検査 大塚： ロービジョン，弱視，保健医療福祉，心因性視覚障害，臨床心理 吉本： 眼疾病学，眼科薬理学 佐藤： 視覚生理学，人体および眼の解剖と生理，眼の解剖と生理 御幡： 眼科検査学，生理光学 〈前期〉 ・国家試験までのおおよその計画をたてる ・各分野の基本的な見直しをする ・復習および追加の講義（特に臨地実習を意識した内容） 〈後期〉 臨地実習が終了後，本格的に国家試験に向けた授業を開始 ・各科目の復習の講義（他の科目との結びつける） ・国家試験の過去問題を解く（解説も） ・練習問題を解く ・定期定期に国家試験に準じた模擬試験を行い，到達度を確認する ・覚えたこと，理解したことを保持する ・必要に応じて個別指導も行う | | | | |
| 成績評価 | マークシート方式の試験を1月下旬に行い，得点が60点以上で合格とする | | | | |
| テキスト | 視能学／第2版（文光堂），現代の眼科学（金原出版），屈折異常とその矯正（金原出版）， 光学・眼鏡（医学書院），視能訓練学（医学書院），視能検査学（医学書院），理解を深めよう 視力検査 屈折検査（金原出版），理解を深めよう 視野検査（金原出版），など | | | | |
| 参考図書 | 視能矯正学（金原出版） | | | | |
| その他 | | | | | |

| 基本情報 | 科目名 | 特論演習 | 専門分野 視能訓練学 | | |
|------|--|------|------------|------|---------|
| | 開講期 | 2年前期 | 1単位 | 45時間 | 授業方法 演習 |
| 担当者 | 田野上 恭子 <input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 兼任 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験（視能訓練士） 病院に勤務し、眼科一般検査の経験を有している。 | | | | |
| 授業概要 | 臨床で遭遇する様々な疾患に対応した検査が出来るようにする | | | | |
| 到達目標 | 様々な屈折異常に対する屈折矯正がより早くより正確に出来るようになる | | | | |
| 授業計画 | 1 自覚的屈折検査：応用① 他覚的屈折値を参考にする方法 2 自覚的屈折検査：応用② 屈折矯正をより早く正確に行うための手順 3 《演習》応用①～②の実践／1年生の屈折矯正の見学 4 自覚的屈折検査：視力値を参考にしない矯正方法、遠視症例の演習課題 5 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出① 6 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出② 7 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出③ 8 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出④ 9 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出⑤ 10 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの検出⑥ 11 【演習】屈折矯正 Step I：乱視の矯正① 12 【演習】屈折矯正 Step I：乱視の矯正② 13 【演習】屈折矯正 Step I：乱視の矯正③ 14 【演習】屈折矯正 Step I：球面レンズの微調整 15 自覚的屈折検査：応用③ クロスシリンダー±0.50D以外を用いる方法 16 自覚的屈折検査：応用④ 難易度の高い症例に対する方法 17 【演習】屈折矯正 Step II：乱視の矯正① 18 【演習】屈折矯正 Step II：乱視の矯正② 19 【演習】屈折矯正 Step II：乱視の矯正③ 20 【演習】屈折矯正 Step II：球面レンズの微調整 21 《演習》屈折矯正 Step III 22 《演習》屈折矯正 Step III 23 《演習》屈折矯正 Step III | | | | |
| 成績評価 | ループリック評価（技術確認を行い、その到達度によって評価する） | | | | |
| テキスト | 理解を深めよう 視力検査 屈折検査（金原出版） | | | | |
| 参考図書 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| 基本情報 | 科目名 | 卒業研究 | 専門分野 視能訓練学 | | |
|------|--|------|------------|------|---------|
| | 開講期 | 3年後期 | 1単位 | 30時間 | 授業方法 演習 |
| 担当者 | 大西 克尚 <input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 兼任 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験（医師） 長年にわたり、大学病院にて臨床、教育、研究に従事する経験を有する | | | | |
| | 佐藤 千鶴 <input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 兼任 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験（視能訓練士） 病院で視能訓練士の業務の経験を有する | | | | |
| 授業概要 | グループ毎に自分たちの興味のある分野について詳しく調べ、それについて発表し、論文を提出する。 | | | | |
| 到達目標 | 1) 自分の興味のある分野についての知識を深める 2) 文献を読み込んで、文章を分かりやすくまとめ、人に伝える力を身につける | | | | |
| 授業計画 | 1 研究テーマを決める 2 " " 3 文献を集めて熟読する 4 " " 5 どのような方向でまとめていくか、メンバーや教員と相談しながら決める 6 " " 7 抄録を作成する 8 " " 9 発表用原稿とスライドを作成する 10 " " 11 卒業研究発表会 予行 12 卒業研究発表会 13 " " 14 発表会で出た指摘事項や質問事項について再検討する 15 論文にまとめて提出する | | | | |
| 成績評価 | 提出された論文の内容、まとめ方、提出期日、及び発表会での内容、まとめ方、で評価する。 | | | | |
| テキスト | なし | | | | |
| 参考図書 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| 基本情報 | 科目名 | 臨地実習 | 専門分野 | 臨地実習 |
|-----------------------------|--|-----------------------------|--|---|
| | 開講期 | 3年 前後期 | 14 単位 | 630 時間 |
| 担当者 | 加藤 千鶴 | <input type="checkbox"/> 専任 | <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験（視能訓練士） |
| | 総合病院にて、一般眼科検査および視能矯正を担当している | | | |
| | 廣瀬 芳彦 | <input type="checkbox"/> 専任 | <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験（視能訓練士） |
| 総合病院にて、一般眼科検査および視能矯正を担当している | | | | 他, 28施設 |
| 授業概要 | 病院, 幼稚園にて臨地実習を行う | | | |
| 到達目標 | <p>〈病院での実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者と直に接することにより、患者の心理・疾患・検査・訓練等の理解を深める 2. 医療チームの一員であることの自覚を持つ 3. 医療機関の体系を修得する <p>以上のことを目的とした臨床実習を経験することにより、 社会に貢献できる視能訓練士になるための技術・知識・倫理観を修得させたい</p> <p>〈幼稚園での実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢による発達の差を知る 2. 子どもとの接し方、接する際の注意点を学ぶ 3. 子どものやる気を持たせる声掛けの方法を学ぶ 4. 子どもへの注意の仕方を学ぶ | | | |
| 授業計画 | <p>1期間は6週間（30日）とする。</p> <p>病院実習を2期間、幼稚園と社会福祉施設の実習を1期間、計3期間行う。</p> <p>病院実習先は30施設、幼稚園は3施設、社会福祉施設は1施設である。</p> | | | |
| 成績評価 | <p>意欲や態度、健康管理、知識、技術、コミュニケーション能力、などを評価指数に挙げたルーブリック評価法にて、施設毎に評価を行う。1施設につき50点満点、合計200点満点のうち6割以上で合格とする。</p> | | | |
| テキスト | なし | | | |
| 参考図書 | | | | |
| その他 | | | | |